

信越シリコーン

防カビタイプ

1成分形シリコーンシーラント

シーラント4588N(オキシムタイプ)

JSIA F ☆☆☆☆ 認定品

シーラント4588Nは、空気中の湿気と反応して室温で硬化する弾性シーリング材です。難溶性の防カビ剤が添加されていますので、優れた防カビ効果を維持します。このため、特にカビの発生しやすい箇所の接着・シール、補修に適します。



水回りの接着・シール

目 次

1 特 長	2
2 用 途	2
3 色の種類	2
4 荷 姿	2
5 有効期限	2
6 特 性	2~3
7 プライマー	4
8 施工手順	5
9 保管・取り扱い上の注意事項	6
10 安全・衛生上の注意事項	6
11 消防法による危険物分類	6

1 特長

- 1成分形なので施工が簡単です。
- 耐久性、耐候性に優れています。
- プライマーを使用することにより、ほとんどの材質によく接着します。
- シーラント4588NはG-20LM-9030G (SR-1)、G-30SLM-9030G (SR-1) に適合するシーリング材です。

2 用途

カビの発生しやすい箇所（台所、浴室、プレハブ冷蔵庫など）、各種内装目地など。

※石材の目地に使用する場合、P6の9 保管・取り扱い上の注意事項5-5をお読みください。

3 色の種類

ホワイト、アイボリー、ダークアイボリー、ライトグレー、クリヤー、ソフトアイボリー、YWG-2*、H*
色見本があります。ご入用の際は裏表紙の各窓口へご請求ください。

※標準準色になりますので、納期等は、別途お問い合わせ下さい。

4 荷姿

330mLカートリッジ（標準梱包：20本、段ボール箱入り）

5 有効期限

製造後12カ月（製造年月日はカートリッジに記載されています。）

6 特性

1. 一般特性

項目		製品名	シーラント4588N
硬化前	外観		ペースト状
	流動性		なし
	指触乾燥時間 23℃分*1		5
*2 硬化後	外観		ゴム弾性体
	密度 g/cm ³		1.04
	硬さ デュロメータA		15
	伸び*3 %		560
	引張強さ*3 MPa		1.2

*1 JIS K 6249による試験結果

(規格値ではありません)

*2 23℃/50%RHで7日後。JIS K 6249による試験結果

*3 硬化2mm厚シートによる試験結果

2. JIS A 5758 (2016) の分類

試験項目			試験結果			JIS A 5758 に規定される性能 (G-20LM-9030G, G-30SLM-9030G)
スランプ mm	縦	50℃	0			3以下
		5℃	0			
	横	50℃	0			3以下
		5℃	0			
弾性復元性		%	アルミ板	引張変形	98	60以上
				せん断変形	96	
引張特性	引張応力 N/mm ²	23℃	アルミ板		0.2	0.4以下
			モルタル板		0.2	
			ガラス板		0.3	
		-20℃	アルミ板		0.3	0.6以下
			モルタル板		0.3	
			ガラス板		0.3	
定伸長下での 接着性		23℃	アルミ板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	破壊してはならない。
				せん断変形	3個とも破壊しなかった。	
			モルタル板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	
				せん断変形	3個とも破壊しなかった。	
			ガラス板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	
				せん断変形	3個とも破壊しなかった。	
		-20℃	アルミ板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	
				せん断変形	3個とも破壊しなかった。	
			モルタル板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	
				せん断変形	3個とも破壊しなかった。	
			ガラス板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	
				せん断変形	3個とも破壊しなかった。	
圧縮加熱及び 引張冷却後の 接着性		アルミ板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	破壊してはならない。	
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
		モルタル板	引張変形	3個とも破壊しなかった。		
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
		ガラス板	引張変形	3個とも破壊しなかった。		
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
高温状態及び湿潤状態での ガラス越しの人工光暴露後の接着性		ガラス板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	破壊してはならない。	
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
水浸せき後の 定伸長下での 接着性		アルミ板	引張変形	3個とも破壊しなかった。	破壊してはならない。	
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
		モルタル板	引張変形	3個とも破壊しなかった。		
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
		ガラス板	引張変形	3個とも破壊しなかった。		
			せん断変形	3個とも破壊しなかった。		
体積損失		%	4			10以下
耐久性			アルミ板	せん断変形	3個とも異常は認められなかった。	明確な異常があってはならない。

測定機関：一般財団法人建材試験センター

3. 引張接着性試験結果

引張 接着 性	被着体	項目	試験温度	50%引張応力 N/mm ²	最大引張応力 N/mm ²	最大荷重時の伸び (%)
引張 接着 性	ガラス板	養生後	23℃	0.24	0.51	210
			-10℃	0.25	0.64	270
		加熱後	23℃	0.22	0.60	314
			-10℃	0.23	0.51	251
		水浸せき後	23℃	0.24	0.54	247
			23℃	0.23	0.48	210
	アルミニウム板	養生後	23℃	0.23	0.54	234
			-10℃	0.25	0.55	269
		加熱後	23℃	0.21	0.52	277
			-10℃	0.23	0.48	216
		水浸せき後	23℃	0.23	0.48	216
			23℃	0.23	0.48	216
モルタル板	養生後	23℃	0.26	0.66	260	
		-10℃	0.27	0.77	292	
	加熱後	23℃	0.24	0.64	297	
		-10℃	0.25	0.77	346	
	水浸せき後	23℃	0.25	0.60	256	
		23℃	0.25	0.60	256	

試験方法：23℃はJIS A1439に準拠 -10℃はJIS A 5758 (1992) に準拠

加熱後：標準養生+90℃加熱×14日

水浸せき後：標準養生+23℃浸水×7日

アルミニウム、ガラス：プライマー-AQ-1、モルタル：プライマー-MT

7 プライマー

1. プライマーの種類

プライマーは、シーラントと各種被着材質との接着性を向上させる下地処理剤です。

シーラント4588Nには各種被着体に適したプライマーの使用を推奨します。

使用対象	プライマー名	性状	溶剤	乾燥時間 23℃(分)	使用量 (g/m ²)
ガラス、ホーロー、タイル 磁器、金属、塗装パネル	プライマーAQ-1	淡黄色透明液体	n-ヘキサン、 イソプロパノール	30以上	50
石材、モルタル、スレート コンクリート、木材	プライマーMT	無色透明液体	トルエン、 イソプロパノール	30以上	200
プラスチック、人工大理石	プライマーT	無色透明液体	トルエン、 イソプロパノール	15以上	50
塩ビ樹脂	プライマーD	無色透明液体	トルエン、 ブタノール	30以上	100

※上記以外の被着材質については、担当営業部署までお問い合わせください。

2. プライマーの選択基準

材 質		最適なプライマー	材 質		最適なプライマー
ガラス・ 石材・ 木材	ガラス	プライマーAQ-1	塗 装 パ ネ ル	アクリル焼付塗装	プライマーAQ-1
	サンカットガラス			メラミン塗装	
	セラミックス			フッ素樹脂塗装	
	ホーロー		プ ラ ス チ ッ ク ス	塩ビ(軟質)	プライマーD
	タイル	塩ビ(硬質)			
	大理石	アクリル		プライマーT	
	スレート	ポリカーボネート		*	
	モルタル	PBT		プライマーAQ-1	
	コンクリート	ABS		プ ラ イ マ ー T	
	木材	エポキシ			
	ポリエステル				
金 属	アルミニウム	プライマーAQ-1	ゴ ム	フェノール	不 要
	ステンレス			シリコーンゴム	
	鉄			SEPラバー	
	銅			ブチルゴム	プ ラ イ マ ー A Q - 1
	錫		ニトリルゴム		
	クロム		ネオプレンゴム		
	ニッケル				
	トタン				
ブリキ					

*：ポリカーボネートの接着には、シーラント72をご使用ください。

※：上記表はプライマー選択の目安です。

当社シリコンシーラント製品を使用する場合は目的に適合するか、事前に接着確認試験を必ず行ってください。
不明な点は担当営業部署までお問い合わせください。

3. 処理方法

(1) 処理面の清掃

さび、油分、手あか、ごみなどの異物をサンドペーパーや溶剤を浸した布できれいに清掃してください。溶剤はトルエン、キシレン、アルコールなどを使用してください。

(2) プライマーの塗布

はけで接着面に均一に塗布します。使用后、容器は必ず密栓してください。

(3) 風 乾

プライマー塗布後は、必ず所定時間以上、風乾させ、当日中にシーラントを施工してください。なお、処理面には指を触れたり、ほこりなどが付着しないように注意してください。

8 施工手順

1. 施工前の確認

目地の形状や寸法、被着体の材質など施工箇所を十分確認してください。

2. 被着面の清掃

被着面に付着しているゴミ、油分、汚れなどをから拭きか溶剤を浸した布できれいに清掃してください。

溶剤は、トルエン、キシレン、アルコールなどの溶剤を使用してください。

※アクリルなどのプラスチックの洗浄溶剤には、n-ヘキサンをご使用ください。

3. バックアップ材の装填

目地の深さを調整し、またシーラントが底部に接着しないように、バックアップ材を装填してください。

なお、バックアップ材は、シーラントが接着しないポリエチレン製のものをご使用ください。

※EPT、クロロプレンなどのゴム類の一部は、接触するとシリコンシーラントを変色させたり、接着不良を起こすものがあります。適合性をご確認ください。


※バックアップ材を装填できない場合は、ボンドブレイカーを装填してください。

4. マスキングテープ貼り

目地周辺の汚れ防止と充填部の仕上がりをきれいにするために、マスキングテープを貼ってください。なお、テープの粘着剤がガラスやサッシの表面を汚損しないものをご使用ください。

5. プライマーの塗布

シーラントと各種被着材質との接着性を向上させるため、適したプライマーの使用を推奨します。

(P4  プライマーの種類参照)

6. シーラントの充填

ノズルを目地幅に合わせて切り、ノズル内部の防湿膜を太い針金などで突き破ってください。

次に、充填用ガンにカートリッジを装着し、目地内のすみずみまでいきわたるように充填してください。

7. 仕上げ

充填後は速やかにヘラ、コテなどで表面を仕上げてください。

8. マスキングテープの除去と清掃

仕上げが完了したら直ちにマスキングテープをはがしてください。目地のまわりにシーラントが付着した場合は、溶剤で拭き取ってください。

※アクリルなどのプラスチック洗浄溶剤にはn-ヘキサンをご使用ください。

※クリーンルームなど溶剤が使用できない場合がありますので、ご注意ください。

9. 養生

シーラントの表面が完全に硬化するまでは、触れないようにご注意ください。

9 保管・取り扱い上の注意事項

1. シーラント4588Nは、空気中の湿気と反応し、表面から硬化します。従って、硬化速度は、温度や湿度などの作業環境により異なります。
 2. 保管は直射日光を避けて、湿気の少ない涼しい場所（5℃～25℃）で行ってください。
 3. 開封したカートリッジは、原則使い切るようにしてください。残った場合は完全に密封してください。
 4. 硬化表面には、塗料は付着しません。
 5. 施工の際は、下記にご注意ください。
 - 5-1. 低温時や高湿時、密閉環境下での施工は、硬化遅延、接着不良の原因となりますので避けてください。
 - 5-2. 施工箇所は事前に、水分、油分、汚れなどを十分に除去してください。
使用溶剤は下記に従ってください。
A) 一般基材：トルエン、キシレン、アルコールなど
B) プラスチック（アクリルなど）：n-ヘキサンなどのパラフィン系溶剤
 - 5-3. 被着材質に適合したプライマーの使用を推奨します。（ただし、クリーンルームなどで使用する場合は、プライマーに含まれる溶剤、揮発成分などの影響について、事前にご確認ください。）
 - 5-4. フレームレスガラス水槽には使用しないでください。
 - 5-5. 石材目地やタイル、ホーロー、塗装パネルなどの外壁目地にシリコンシーラントを使用すると、目地周辺が汚れることがあります。使用の際は、事前にご確認ください。
 - 5-6. バックアップ材には、ポリエチレン製のものを使用してください。（EPT、クロロプレンなどのゴム類の一部は、接触するとシリコンシーラントを変色させたり、接着不良を起こすものがあります。適合性をご確認ください。）
 - 5-7. 構造接着用途には、使用しないでください。
 - 5-8. 硬化時に発生するオキシムガスによる銅系金属の腐食の恐れがありますので、事前にサンプルテストを行い、用途適性をご確認ください。
 - 5-9. 魚類飼育用（観賞用）水槽や飲用水槽にシーラント4588Nは推奨されません。
 - 5-10. 硬化後のシーラントが連続して圧縮変形を受けた場合、シリコンオイルが表面に染み出すことがありますので、ご注意ください。
6. 施工用具について
 - 6-1. 使用後は、直ちに清掃、洗浄し、調整してください。
 - 6-2. エアーガンを使用する場合は、0.3MPa以下でご使用ください。

10 安全・衛生上の注意事項

1. 未硬化状態のシリコンシーラントは、皮膚刺激性を有するので、皮膚・粘膜に付着しないように、ゴム手袋、安全めがねなどの保護具を着用ください。皮膚に付着した場合、ウエスなどで拭き取ってから、直ちに流水で十分に洗い流してください。万一、目に入った場合は、直ちに大量の水で洗い流し、必要に応じて、医師の診断を受けてください。また、コンタクトレンズ着用者は、誤って目に入れた場合、目に固着することがありますので、特にご注意ください。
2. 取り扱いの際には、換気を十分に行い、蒸気の吸入を避けてください。蒸気の吸入の恐れがある換気の悪い場所での使用は避けてください。もし、蒸気を吸入して気分が悪くなったときは、直ちに新鮮な空気の場所へ移動してください。換気が不十分な場合は、有機ガス用防毒マスクの着用をお勧めいたします。シーラント4588Nは硬化時にメチルエチルケトオキシム(MEKO)を発生します。
3. 子供の手の届かないところに保管してください。
4. 使用前には、安全データシート（SDS）をお読みください。SDSは、担当営業部署にお問い合わせください。

11 消防法による危険物分類

1. 下記のプライマー製品は、消防法の危険物に該当しますので、火気厳禁など、法に準じた保管・取り扱いが必要です。

第四類	第一石油類	プライマー-AQ-1 プライマー-D	プライマー-T プライマー-MT
指定可燃物	可燃性固体類	シーラント4588N	

2. シーラント4588Nは危険物に該当しませんが、3,000kg以上保管する場合には、指定可燃物（可燃性固体類）に該当しますので、表示など、保管上の注意が必要となります。

シリコンシーラントについてのお問い合わせは

本社 シリコン事業本部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル
 営業第四部(シーラント) ☎ (03)6812-2411
 大阪支店 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-11-4 損保ジャパン肥後橋ビル ☎ (06)6444-8226
 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-5-28 桜通豊田ビル ☎ (052)581-6515
 福岡支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-12-20 日之出天神ビル ☎ (092)781-0915

ご用命は

- 当カタログのデータは、規格値ではありません。また記載内容は仕様変更などのため断りなく変更することがあります。
- ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかどうかご確認ください。なお、ここで紹介する用途や使用方法などは、いかなる特許に対しても抵触しないことを保証するものではありません。
- 当社シリコン製品は、一般工業用途向けに開発されたものです。医療用その他特殊な用途へのご使用に際しては貴社にて事前にテストを行い、当該用途に使用することの安全性をご確認のうえご使用ください。なお、医療用インプラント用には絶対に使用しないでください。
- このカタログに記載されているシリコン製品の輸出入に関する法的責任は全てお客様にあります。各国の輸出入に関する規定を事前に調査されることをお勧め致します。
- 本資料を転載されるときは、当社シリコン事業本部の承認を必要とします。



当社のシリコン製品は品質マネジメントシステムおよび環境マネジメントシステムの国際規格に基づき登録された下記事業所および工場にて開発・製造されています。

群馬事業所 ISO 9001 ISO 14001
 (JCQA-0004 JCQA-E-0002)
 直江津工場 ISO 9001 ISO 14001
 (JCQA-0018 JCQA-E-0064)
 武生工場 ISO 9001 ISO 14001
 (JQA-0479 JQA-EM0298)

<https://www.silicone.jp/>